

【計画のあり方について】

- 計画の検討に際しては、子どもや若者の意見を聴いていくべきである。
- リニア中央新幹線やアジア競技大会をどうしていくかではなく、「それぞれが開業・開催されるころに名古屋がどうなっているか」をしっかりと考えていきたい。
- 計画において「名古屋らしさ」の色をしっかりと出していくべき。
- 名古屋市は基礎自治体だが、自分のことだけを考えていてはいけない。圏域、スーパー・メガリージョン、日本、世界の中の名古屋など、引いた視点を持つことが大事。
- SDGsは環境の問題に収束してしまわないよう、計画の全体に位置づけるべきである。

【子ども・若者の応援、子育て支援】

- かつては地域のいろいろなところで見えていた子どもの姿が見えなくなっている。震災後の東北や九州でよく耳にしたことだが、子どもの遊び声が地域に広がると地域が元気になる。
- 子どもたちが、放課後に友達と夕暮れまで遊ぶ機会が減っている。放課後から暗くなるまでの時間を自分たちがどうやって過ごすかを自分で決める力は、その後の子どもたちが生きていく力にそのままつながる。
- 名古屋市は大都市の中でも公園が多いまちなので、その特徴を活かし、公園に子どもたちの声がまた戻ってくるようなまちづくりができるといい。
- 「妊娠～出産～子育て」に対する切れ目ない支援が大切である。
- 妊娠中や子育ての支援は、行政だけではなく地域の力を活用すべき。地域コミュニティの力を子育てに使えると、地域の活性化にもつながる子育ての力になる。
- 子育て・教育の中で、子どもの「将来を考える力」を養っていけるとよい。
- 名古屋市の出生率は他の大都市よりも高いが、持続的な発展を考えると、出生率の更なる改善が必要である。そのためには、未婚化対策、幅広い世帯への出産・子育て支援、そして多子世帯への支援が必要である。

【地域の活性化、暮らしの安心安全】

- 在宅医療を推進していくうえで、医師の育成が課題となっており、名古屋市全体の医療体制も含めて考えていく必要がある。高齢化や健康寿命については、ご本人やご家族の意識にどのような心構えをつくっていくかが重要であり、健康意識を名古屋市の特徴としていけるような体制づくりができるとうい。
- 愛知県の女性管理職者は全国最低水準である。裏を返せば男性に負荷がかかっている状況にあり、依然として男性のみに依存した労働システムになっているのではないだろうか。今後は、21世紀型の働き方を開発していく必要がある。
- 少子化と女性活躍は、切っても切り離せない関係にあるため、どちらも同じ枠組みで議論する必要がある。
- 男女ともに晩婚化の傾向がみられるが、その理由は男女間で異なるものとなっている。この意識のギャップをしっかりと捉えて、女性活躍と少子化を議論していく必要がある。

る。

- 在宅ワーク型の起業が促進されると、女性の活躍の場が増える。
- 若者の力を活用し、都市内でのコミュニティ再生に取り組む必要がある。大学までは地域に向いていても、働き始めると会社のみを見てしまうため、就職後の若者をいかに地域の担い手にするのか、そのために小学校入学から大学卒業までにどのような教育をしていくのかが重要である。
- 地域コミュニティへの加入状況も大事だが、実際に参加してもらうことが重要である。
- 町内会などは、多方面の行政機関からさまざまな協力依頼を受け、人手が足りない状況にあり、持続可能な関係性を考えていく必要がある。
- 地域づくりに参画できる人材を分野横断的に洗い出し、つなげていくことが必要である。
- 内発的に地域づくりに取り組めない地域については、NPOや行政など外部のサポーターが、アウトリーチ的な対応を実施していくことが必要である。
- 地域づくりは人づくりの部分が重要であり、地域課題を発見してプロジェクトをすること、人を発掘して育てていくことを両輪で考えていけるとよい。
- 多文化共生は、教育や防災、地域づくりなど全ての分野に共通する。
- 近年、外国人住民の急激な増加に対応が追いつかず、子どもだけでなく大人も含めて、日本語教育などの対応が後手になっている。今後も外国人住民は増加していくことが予想されることから、総合計画にも外国人への取り組みをしっかりと位置づけていくべきである。

【防災、環境】

- 政府見解によれば、南海トラフ巨大地震の発生確率は30年で70～80%と言われており、平均的にここ14年くらいに発生するとされており、その被害の中心は名古屋圏である。市民の安全と産業を守らなければならない。
- 予知ができないことが前提となったので、事前防災の重要性が一気に高まった。市は市民への広報等の、事前対策を行うよう促進する施策が必要である。
- 名古屋圏は産業中核拠点であり、その被害は圏内外に及ぶ。産業防災を考えた場合、公的に行えることには、適切な土地利活用と確実なインフラ整備などがある。また、震災復興では、名古屋市には空地がなく、仮設住宅の建設場所やがれき置き場が課題となり、市域を超え広域で考えていく必要がある。
- 大名古屋圏などの広いエリアで防災を考えていくためには、しっかりとした戦略作りが必要であり、名古屋都市センターなどを強化してシンクタンク機能を持たせるなどの検討が必要である。
- 低炭素システムは環境の観点だが、産業やまちづくりと組み合わせさせて初めてエネルギーの削減につながるため、広い視野で議論していきたい。
- 環境に関する社会情勢として、低炭素都市2050やエネルギー基本計画における目標などがあるが、これらをプレッシャーと感じるのではなく、こうした社会情勢をうまく活用して名古屋市の環境をよくしていく視点で考えていきたい。

【都市活力】

- リニア開業まであと9年だが、リニアの準備が遅れているのではと感じている。しっかりと時間軸を意識していく必要がある。
- 三大都市圏がひとつになって成長のセンターとして集積の効果を生み出していく必要がある。
- スーパー・メガリージョンの成長をいかに全国に波及させるかという視点を持つことが大事。
- スーパー・メガリージョンを人口増の極にする。リニア沿線は出生率も高い。通勤圏も広がり、色々な住まい方が可能になる。
- 名古屋は、東京－大阪間で、一番便利に「普通の日本」が味わえる場所である。また、地理的にも高山や京都などへのアクセスもよい。こうした名古屋市ならではの特徴・文化や立地優位性を深めていき、みんなで発信していけるとよい。
- 名古屋城をはじめとした「観光集客力があり経済価値の高い歴史的資産」について、指定管理者制度導入など民間のプロフェッショナルの力を借りながら、有効活用していくべきである。また、魅力づくりのために、街のイベント実施に大きくかかわる保健所や警察、公園や河川使用等の規制緩和を進めていくかが重要である。
- 名古屋の観光は弱いが、来訪者は多く主にはビジネス目的である。ビジネス目的の来訪には宿泊食事交流と観光の側面もある。名古屋はビジネス観光が盛んだといえる。またアンケートで「住みやすい」という人も多いのなら、それをアピールするべきである。
- 名古屋の街には色々なストーリーがある。歴史的な偉人、産業的な偉人、スポーツの偉人…。モノは増やせないなので、それら人物を活かしたイメージづくりが重要である。
- 産業は、人がいきいきと暮らしていくための手段であり、男女だけでなく、年齢や国籍、ライフサイクルにおいても差別なく働ける柔軟な働き方や暮らし方ができることを担保する必要がある。
- 外国人が増えているということは、選ばれる魅力があるということ。この魅力をさらに磨き上げ、世界から選ばれ、人が集まるまちになれるとよい。
- 自動運転技術の発達によって第4次交通革命がおこり、子どもや高齢者でも自由に移動可能な時代が到来する。この変化が社会に及ぼす影響を考慮したまちづくりを考えていく必要がある。
- 2020年に人工知能に関する国際会議が名古屋で行われるが、AIの活用については関東に比べて名古屋は一回り遅れている。
- AIをこの地域の産業界に浸透させて、最強のものづくり帝国、製造業最強の中部をより強くしたい。
- 女性の起業はサービス業が多く、それを支援することでサービス業の集積が進み、ものづくり産業が中心の名古屋をより盛り上げることができる。また、女性の起業は、女性が働きやすい場が増えることにもつながり、女性の活躍推進となる。